

# 市民まちづくりにおけるアーバンデザインセンターの役割と存在意義

## —柏の葉アーバンデザインセンターのまちづくり活動を例に—

Role and significance of the existence of the urban design center in citizen's MACHIDUKURI

Case Study of the MACHIDUKURI activity of KASHIWANOHA urban design center

学籍番号 47-096770  
氏名 福角 朋香 (Fukusumi, Tomoka)  
指導教員 清水 亮 准教授

## 1 はじめに

### 1.1 研究の背景と問題意識

公・民・学連携のまちづくり組織として2006年に千葉県柏市柏の葉キャンパス駅前の新開発地に柏の葉アーバンデザインセンター（以下UDCK）という組織並びにセンターが、東京大学・柏市・三井不動産を始めとする様々な構成団体の協力のもと、設立された。設立当時は、駅前開発の進展もまだ進んでおらず、駅前居住者数も少なく、役割としては空間形成への関与などのハード的側面が強かった。また多様なイベントの企画を行い、新しい組織体・センターであるUDCKの存在を発信していくことが重要であった。そして、発信し続けた成果として、多くの活動（空間計画、研究活動、実証実験、その他のイベントや展示）が行われてきた。創設から4年間が経過した現在、ハード中心だった当初の役割は少しずつ変化し、ソフト面でのまちづくりが活発化してきた。UDCKの活動は、アーバンデザインとまちづくりの融合や、市民主体まちづくりの実践、新たなコミュニティの形成など様々な分野を横断し、広がっているが、これらの活動の住民・市民に対する影響を評価し、今後の空間形成に反映させることが必要となっている。

### 1.2 研究の目的

【目的1】地域におけるまちづくりの歴史、コミュニティ形成の経緯と現状を整理することで、アーバンデザインセンター（以下UDC）の役割を明らかにする。

【目的2】UDCKが発信してきたソフト中心のまちづくり活動をきっかけに生まれた市民のまちづくり意識の変化や活動の展開を調査することで、活動が住民・市民にとって与えている影響を明らかにする。さらに、住民・市民の視点から捉えたまちづくりを、空間へフィードバックし、ハードとソフトが連携するための方法や今後の方向性を示唆する。

【目的3】目的1と目的2の結果をもとに、UDCKの地域のまちづくりにおける存在意義を問う。

### 1.3 研究の対象と方法

本研究の対象は、①UDCKの機能と役割、②それを取り巻く地域の歴史からみたコミュニティ、さらに③UDCKの市民を対象とした市民活動についての3点を軸とする。

方法は、地域組織、UDCK関係者へのヒアリング調査、UDCKの活動参加者に対するアンケート・ヒアリング調査を実施した。調査対象数はヒアリング：計52人（36回）、アンケート：計162人（244部配布、回収率66%）であった。

## 2 まちづくり拠点としての概要と位置づけ

### 2.1 まちづくり拠点としてのアーバンデザインセンターの位置づけ

日本においてまちづくりの拠点として類似するものを整理すると、コミュニティセンター、TMO、まちづくりセンター等が考えられる。このような拠点とUDCの違いについて整理する。

コミュニティセンターは住民のコミュニティ形成に主眼を置いており、多主体連携で運営し、住民以外にも開かれている点で異なる。TMOは主に中心市街地のエリアに限定したものであり、今後の課題として、地域への広がりを唱えているものの、人材の確保が商工会議所や商工会に限られている点で異なる。さらに、まちづくりセンターについては、市民活動を支援する分野に専門性が偏っており、空間形成などのハードな取り組みに対する取り組みや問題解決にUDCと大きく違いが見られることがわかった。

上記により、UDCは「多主体がフラットな関係で連携していること」「ハードからソフトまで多岐に渡る専門性を有していること」が他の組織と比較して違いが大きく、さらに「拠点となる場を持っていること」が特徴であると言える。

## 2.2 地域におけるUDCKの位置づけ

千葉県柏市は東京のベッドタウンとして発展し、急激な人口増加によって1975年中頃よりコミュニティ施策「ふるさと運動」が提唱される。その中でも、運営組織としての「ふるさと協議会」とその活動拠点となる「近隣センター」が、1980年より概ね中学校区に該当するコミュニティエリア毎に順次建設された(図1)。

行政による試行錯誤が繰り返され、ふるさと協議会の活動によって、ある程度のコミュニティ形成効果があった。しかし、現代の人々の生活の多様化や地縁コミュニティの衰退が進む中で、今後は行政の施策・実行だけでは限界がある。つくばエクスプレスの沿線開発により、再び新住民の増加が考えられる地域において、地縁コミュニティと連携した、新たなコミュニティづくりが求められている。

行政とふるさと協議会へのヒアリング調査により、柏市では「地縁コミュニティ」とNPOなどの「テーマ(志縁)コミュニティ」の協同を模索していることがわかった。また、柏市市民活動推進課は、ふるさと協議会の活性化に繋がる新しい取り組みや、各協議会が連携できるしくみのヒントとして、UDCKの活動に注目している。

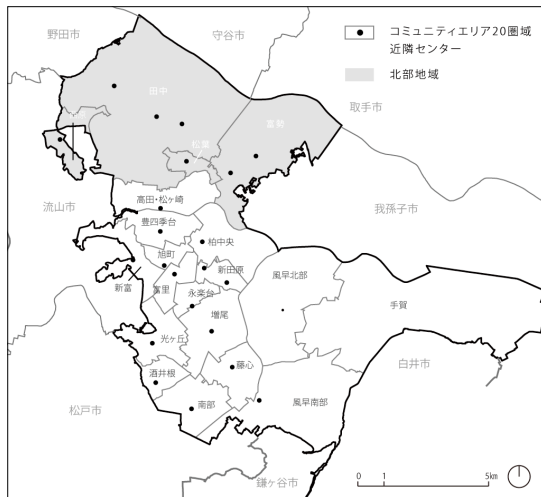


図1 柏市コミュニティエリアと近隣センター

## 2.3 UDCKの歴史的な成果や課題

UDCKは柏市北部地域、柏の葉キャンパス駅前に立地する。創設時の役割は、「プラットフォーム機能、シンクタンク機能、情報発信機能」とし、現在は「まちづくりの推進、研究・提案、実証実験・事業創出、空間計画、交流・学習」として、徐々に変化している。

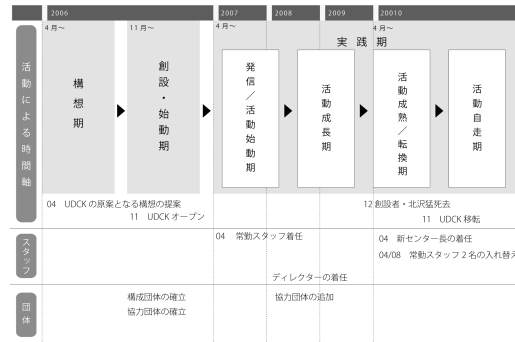


図2 UDCKの活動時間軸

創設から4年間のUDCKの歴史を整理するため、UDCK関係者にヒアリング調査を実施した。図2の時期を網羅することや多主体の様々な立場の人を対象とした。これによって、①UDCKという新しい組織体・場をつくった意味は大きく、キャンパスタウン構想という一つの目標に向かって多主体が関わることができたこと、②多くの実践を発信してきたことが成果であることがわかった。また、変化として、①創設時はハードの役割が大きかったが、徐々にソフトの活動が活発化してきたことや今後はそのフィードバックが求められていることなどが挙げられた。今後の課題として、①活動を今後どのように継続していくか等の担い手を育てることの重要性が挙げられていること、②周辺地域との連携を図り、巻き込んでいく必要があることなどが明らかとなった。

## 2.4 まちづくりの拠点が担うUDCKの位置づけ

UDCKが捉える領域は実にフレキシブルであり、捉えきれないほど多岐に渡っているため、担う役割は常に個々のケースに応じて対応できるような柔軟性が求められる存在であることがわかった。現在のUDCKの活動の整理(表1)において、創設当初に比較してその活動範囲は広がっていることが明らかである。また多主体が生み出す取り組みが多様化することで、運営側だけではなく、住民や市民にとってUDCKの捉え方が複雑化することが予想される。従って、多主体が関わっていることで多くの活動が生まれるものの、これらの広がりやマネジメントしていくことが今後の課題である。

このような状況の中、UDCKと駅前の町会が協働でまちづくり協議会を立ち上げ、地域全体のエリアマネジメントを積極的に行っていくべきであるという考え方が出ており、具体的な試案が始まっている。

### 3 UDCKの活動の実態把握と市民への影響

#### 3.1 市民を対象としたまちづくり実践

UDCKの4年間の活動の分類は空間計画、研究活動、実証実験、育成活動、プロモーション、情報発信などがある。それらの活動がどのように市民に影響を与え、「まちづくり」を進めてきたのかということについて明らかにするため、ケーススタディを行ない、検証する。特に本研究では、UDCKに関わっている多くの主体（行政、大学、企業、NPO）と住民・市民の関係について焦点を当てており、市民を参加者の対象としているものを取り上げた。他の1点を追加した以下の計3点に着目し、市民対象の中からケーススタディとして5つの活動を選定した。

- ①住民・市民を対象とした活動
- ②行政、大学、企業、NPOと住民・市民の関係がある活動長期的に活動をおこなっている活動
- ③長期的に行っている活動

#### 3.2 活動の概要

本研究の対象とする活動は上記の選定理由により、まちづくりスクール、カレッジリンク、ピノキオプロジェクト、マルシェ・コロール、まちのクラブ活動を選定した（表2）。活動内容については資料と活動主体へのヒアリングを行ない、これらの活動における発足経緯・活動目的・内容・主催・協力・組織体制・広報・参加者の属性、活動エリアについて整理した。

#### 3.3 活動の実態調査

住民・市民にとっての活動の影響を調べる目的で、活動別にアンケート調査を実施

した。内容は①活動について、②UDCKについて、③まちづくりについてという3分野に分けて実施した。

#### 3.4 活動の特性による市民のまちづくり意識への影響

アンケート結果によると、「活動を今後も続けて参加したい」という持続的な参加に対する意見（90%）や、「活動を通じて他の活動に対する興味が深まった」（61%）と次の展開に繋がる意識に対する回答や、「活動によってコミュニティが広がった」（自由回答）などの回答に同意した結果が多く、活動に対する満足度が高いことがわかった。また、殆どの活動の拠点となっているUDCKについても活動に参加することで、「身近な存在になった」（自由回答）という肯定的な意見や、「地域に対する役割をもっと明確に示してほしい」と言った指摘が挙げられた。UDCKに対する住民・市民の意識に変化が起きていることがわかった。

活動のテーマ、対象、活動の方法によってアンケート結果に様々な違いが見られるものの、全ての活動において「活動に参加することでまちづくりに対する興味が深まった」と答えた人が全体の76%であり、活動によって、参加者のまちづくりに対する意識に変化を与えるきっかけとなっていることが明らかとなった。

このような住民・市民のまちづくり意識に影響を与えている大きな要因として、「①多くの人が興味を持てるような仕掛けがある②継続した活動の実施③地域に活動拠点がある④参加者同士の交流が生まれるきっかけとなるプログラム、実践的なプログラムがある」といった4点が考えられる。

表1 現在のUDCKの活動概要

空間計画	柏の葉国際キャンパス構想 柏の葉キャンパス入駐149街区まちづくり方針 柏市北部中央地区まちづくり推進方針 三郷地区センターゾーン都市デザインプラン 千葉大学キャンパスマスタープランと地域連携 柏市環境まちづくりガイドラインの検討 CASBEE 柏	緑道の運と緑道のまちづくり 駅北側地区のデザイン検討 柏大なか麻あるまちづくり 柏駅南口地区事業検討 UDCT 福島県田村市まちづくり UDCKo 郡山アーバンデザインセンター
研究	都市デザインスタジオ 建築環境デザインスタジオ 柏の葉まちづくり研究会 環境空間計画の基礎研究 地域教育部会 自転車部会	UDCK 環境フォーラム UDCK 教育フォーラム 柏の葉モビリティフォーラム 柏城大学連携部会 UDC 研究会、UDC 会議
実証実験	ケミレスタンププロジェクト ベロタクシー みちのプロジェクト ガラスの花ワークショップ 柏の葉エコ・デザインツアー 小さな公共空間 PLS 自転車の共同利用	セグウェイの活用 柏の葉はちみつプロジェクト 柏の葉モビリティ・ラボ 柏の葉サイクル・ツアー 柏の葉セグウェイ・ツアー 柏城大学院演習カレッジリンク モビリティシステム
育成	まちづくりスクール あそびの学校、五感の学校	ピノキオプロジェクト 千葉大学大学院演習カレッジリンク
プロモーション	未来観測 サマーナイトピクニック 地域活性化プラットフォーム事業 柏の葉まきくらまつり 柏の葉ピクニッククラブ TX サイクルフェスタ 養育学プロジェクト	マルシェコロール ビタニックエキスポ、ピノキオボリス柏の葉 健康フェア ふるさと田んぼしまつり 柏の葉キャンパス駅前クリーン作戦 ほっぴばっけ隊 サイエンスカフェ

表2 本研究の対象活動概要

	まちづくりスクール	カレッジリンク	ピノキオプロジェクト	マルシェ・コロール	まちのクラブ活動
内容	内容まちづくりの担い手を育てることを目的に「公民学」様々な主体が参加できる市民講座であり、まちづくりの実践の場となることを目標としている。	「市民科学」を目標に、大学の知と市民の力を合わせて「環境・食・健康」をテーマに活動する市民講座であり、多くの実践を通して学ぶ。	地域で子どもを育てることを目的としたアートプロジェクト。子どもが地域に出て実践しながら学ぶ。	地域の商店と住民・市民の交流プロジェクト。地域の食文化を盛り、パフォーミング等の参加型イベントを通して地域の人が活躍できる場をつくることを目的としている。	活動を通して市民のネットワーク「リンクピクニック」を繋ぎ、広げていくことを目的としている。
開催	市民講座 ワークショップ	市民講座 ワークショップ 実演	ワークショップ	イベント ワークショップ	イベント
	2007年5月～	2008年1月～	2007年10月～	2008年5月～	2007年7月～
UDCKと運営主体の関わり	UDCK 運営主体 参加者 住民・市民	運営主体 UDCK 参加者 住民・市民	UDCK 運営主体 参加者 住民・市民	運営主体 UDCK 参加者 住民・市民	運営主体 UDCK 参加者 住民・市民
留意エリア	つくばエクスプレス沿線区域	つくばエクスプレス沿線区域	柏の葉地域周辺小学校区	柏市北部周辺5市域	柏の葉地域
主な担い手	つくばエクスプレス沿線住民	つくばエクスプレス沿線住民	柏の葉地域周辺小学生	柏市北部周辺5市の商店	なし
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・120人を超える修了生・修了生安定したプロジェクト</li> <li>・修了生が活躍できる「場」をつくること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルネットの動きをつくれたこと</li> <li>・活動のPR、マーケティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域外からの評価</li> <li>・地域内の活動への理解</li> <li>・地域内運営のしくみづくり</li> <li>・担い手育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出展数の安定、多くの参加者</li> <li>・出店者と住民の主体的な活動発生</li> <li>・活動の広がりによる地域性の発見</li> <li>・地域内運営のしくみづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの活動の実現</li> <li>・住民・市民の主体的な参加</li> <li>・活動の広がりによる運営の困難</li> <li>・地域内運営のしくみづくり</li> </ul>
課題					

#### 4 まちづくり活動の実践から生まれる市民の関係づくり

まちづくり活動をきっかけに、市民・住民がどのようなプロセスでまちづくりに関わり、自発的な活動が生まれるのかということ「関係づくりのプロセス」と定義し、そのプロセスをstep1からstep5に分けて検証する。(表3参照) step1については、UDCKが創設されたこと自体を意味しているため、各活動のプロセスの違いはstep2からstep4に見られると考える。従って、step2からstep4のプロセスを各事例をもとに検証する。

5つの活動において自発的な活動が生まれた経緯やその運営体制、今後のフォロー体制について分析した。その結果わかったこととして以下に示す。

- 1) 全ての活動でstep3にあたるリピーターや積極的な参加者が発生していること。
- 2) 全ての活動でstep3からstep4にあたる「活動の展開」や「自発的活動」が生まれていること。
- 3) 各活動によってstep3からstep4に至る経緯が異なること。
- 4) 殆どの活動はまだstep5にあたる「活動成熟・継続期」の段階ではないこと。

特に、step4の活動の展開や自発的活動を生み出す要因として、以下の3つに分けられ、その後のサポートに違いが見られることがわかった。

- ・ワークショップがある活動など、活動のプログラムによるもの
- ・活動を通じた参加者のネットワーク形成によるもの
- ・担い手育成の土台が活動主体によって用意されているもの

さらに、今後のサポート(step3~4)として①場所の提供②専門家の派遣③運営のサポート④広報のサポートが考えられる。現段階におけるサポートの有無を表4に示した。

活動主体の役割として、このような活動によって生まれた動きを丁寧に拾い上げ、次のステップに繋げていくことが重要である。これによって、住民・市民が地域へ関わるきっかけを生み、活動を通してまちづくりに関わるができる。

表3 関係づくりのプロセスの概要

	step1	step2	step3	step4	step5
概念	「きっかけの場」の発生	「きっかけの場」の発生と共に生み出された「発信の関係」があり、新たな「発信の場」ができる	「発信の場」の発生と共に生み出された「萌芽の関係」があり、新たな「萌芽の場」ができる	「萌芽の場」の発生と共に生み出された「展開の関係」があり、新たな「展開の場」ができる	これらの「関係」と「場」によって、普遍的な「空間」が固有性を伴った「場所」になり、ハードのまちづくりへ還元するきっかけづくりができる
活動時期	—	活動立ち上げ期	活動始動期	活動発展期	活動成熟・継続期
具体的内容	公民学連携の関係によって生み出されたまちづくりの視点UDCK	UDCKの建設や柏の葉のまちづくりにおける活動の発足	活動が開始し、試行錯誤を繰り返しながら、活動の形を決める時期であり、活動の主体側からの発信を重点的に行い、まちづくりの活動から住民・市民の関係が生まれ、リピーターの発生や活動の活性化が起る	活動参加者が安定し、リピーターの増加や参加者の中から活動の展開や自発的活動が生まれる時期	活動に様々に展開し、まちづくりの担い手が育ち、活動を継続する時期

表4 各活動のstep2・step3概要

	step3	step4	step4~step5				
			展開後のサポート				
	リピーター	活動の展開	場所の提供	専門家の派遣	運営	広報	資金
まちづくりスクール	○ リピーターの偏りが懸念されている	・スタッフへの参加 ・ボトムアップ提案型の活動発生	○	△	×	○	必要なし
カレッジリンク	○ リピーターの偏りが懸念されている	・ボトムアップ提案型の活動発生	○	○	○	○	○
ピノキオプロジェクト	○ —	・リーディングメンバー(運営協力)への参加	○	○	○	○	○
マルシェ・コロール	○ 徐々に増加傾向	・コラボレーション企画(自発的活動)の発生	○	必要なし	△	○	×
まちのクラブ活動	○ 徐々に増加傾向	・住民提案型活動の発生	○	必要なし	△	○	×

#### 5 アーバンデザインセンターの役割と存在意義

目的1に対して、地域におけるUDCKの役割を明らかにした結果、地縁コミュニティとテーマコミュニティの両者が重なる「地域志縁コミュニティ」という考え方の可能性を提示した。新開発地の中で広がり易いテーマ性のコミュニティに改めて地域性の必要性を見直し、繋ぐ役割を担う必要があることがわかった。

また、目的2に対しては、UDCKが発信してきた活動によって、住民・市民の「まちづくり意識」に変化を与え、さらには活動の展開や自発的な活動を生み出したことが明らかとなった。それによってUDCKはまちと市民の間にまちづくりという一つの関係性を生むきっかけづくりを担う存在となることがわかった。

上記の2点を踏まえ、柏の葉という新しい地域にUDCKがあることの役割と存在意義として、既存のコミュニティでは繋ぐことができなかった人と人、人と地域を繋ぎ合わせ、新たなコミュニティ形成の場としての役割と、住民や市民が様々な方法で地域を知り、学び、活動する舞台をつくり得る役割を担っているとと言える。

今後は、こうした地域の活動によって生まれた関係や動きを、空間形成に繋げていくことがUDCKの課題であると考えられる。これによって、ハードとソフトの垣根を超えたまちづくりの場となり、地域に関わる人々が残していきたいと思うような持続的なまちづくり・アーバンデザインの実践に繋がると考えている。